

2019年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 情報福祉マネジメント学科

情報福祉マネジメント学科では、カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢振り返り」として「1. アクティブラーニングを取り入れた多様な教育科目を受講し、主体的な学びを行っている」「2. ポートフォリオを作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理、振り返りに取り組んでいる」「3. ユニバーサルパスポートを活用し、教員の双方向のコミュニケーションを密にすることで学修成果を高めようとしている」「4. PBL(Project and Problem Based Learning)に取り組み、高度な問題発見・問題解決能力を養っている」「5. 知識・技術の確実な定着のために、講義科目のみでなく、実習科目にも取り組んでいる」の4項目を6件法によって調査することで、学科 教育課程の編成・実施の方針に照らしたカリキュラムの適切性の検証を実施した。（回答数：128）

6件を1～6点に変換し、平均値、「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」（以下、「そう思う」以上）と解答した者、および、「全くそう思わない」と解答した者の全体に対する割合は、それぞれ、下記の通りであった。なお、カッコ内は2018年度の結果を示している。

1. アクティブラーニングを取り入れた多様な教育科目を受講し、主体的な学びを行っている（図1 平均値：3.74（2018年度は調査なし））
「ややそう思う以上」 61.7%（2018年度は調査なし）
「全くそう思わない」 3.9%（2018年度は調査なし）
2. ポートフォリオを作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理、振り返りに取り組んでいる（図2 平均値：3.72（3.68））
「ややそう思う」以上 58.6%（65.1%）
「全くそう思わない」 2.3%（1.1%）
3. ユニバーサルパスポートを活用し、教員の双方向のコミュニケーションを密にすることで学修成果を高めようとしている（図2 平均値：3.91（4.02））
「ややそう思う」以上 67.2%（74.3%）
「全くそう思わない」 1.6%（1.1%）
4. PBL(Project and Problem Based Learning)に取り組み、高度な問題発見・問題解決能力を養っている（図3 平均値：3.84（3.88））
「ややそう思う」以上 67.2%（72.0%）
「全くそう思わない」 2.3%（3.4%）

5. 知識・技術の確実な定着のために、講義科目のみでなく、実習科目にも取り組んでいる（図4 平均値：4.06（4.01））

「ややそう思う」以上 75.8 % (74.9 %)

「全くそう思わない」 0.0 % (2.9 %)

5項目中3項目において、「ややそう思う」以上が3分の2である66.6%を上回り、逆に、「全くそう思わない」は4%を下回っていることから、**学科 教育課程の編成・実施の方針は概ね適切**と判断できる。ただし、2018年度の調査結果と比較をすると、2018年度にも調査を実施している4項目中2項目で平均点が低下し、3項目で「ややそう思う」以上の割合が減少している点は注視する必要がある。

特に、「ポートフォリオを作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理、振り返りに取り組んでいる」については平均点が3.72、「ややそう思う」以上が58.6%と他の項目と比較して低調である。この傾向は2018年度(65.1%)から改善していない。各ゼミ等において、各人の学修、および、学生生活の反省を促す働きかけを行い、その上で、それらを記録するように指導を行う必要がある。

